

町の位置や規模、構成年齢だけでは、このような記録を出すことはできないのではないだろうか。藤里町では何年もの時間をかけて、そして何人もの人が事故を起こさないという意識をもっていたからだと思います。十人の人がいて、もし一人でも気を抜けば、このような記録にはならなかったでしょう。これは藤里町としてとても誇れることだと思います。

藤里町は、人口が少ないため、だいたいの人が知り合いで、友達という関係も多いです。そのため、警察の方と町の人が協力して町の安全を守ってきているのだと思います。町の規模が大きくないからこそ、藤里町では、お互いに協力し合い、一致団結して交通事故防止に取り組めるという良さがあるのです。私たちが小学生のとき、交通安全パレードを行いました。当日、たくさんの方が見に来てくれて、私たちが安全に最後まで演奏できるようにしてくれました。そして、交通安全パレードは大成功で終わりました。

そして先日、歩行者天国がありました。この町の人も他の県や町から遊びに来ていた人も楽しんでいました。祭りの最中はもちろんですが、祭りが終わると、交通指導隊の方たちと警察の方が見回りをしていました。最後まで、安全に気を付けてくれる人がいてありがたいなあと思いました。また、町では車を止めて道をゆずってくれる方がよくいます。道をゆずってくれた運転手の方へ私は、その場で頭を下げ、礼をしています。そうすると車に乗っている人が、笑顔で通り過ぎるので私もうれしくなります。運転手も歩行者もお互いを思いやって安全に気持ちよく過ごせるのが一番です。わが家では、事故を起こさないためにい

つも声かけをしています。例えば、「シートベルトはした?」「安全運転でね。」などの声かけです。かけがえのない命、かけがえのない家族を守るためにこれからも声かけを続けていきます。そして自分の生まれ育った大切な地元なので、みんなで交通安全を心がけ、交通死亡事故ゼロが一万日を達成できたら、とてもうれしいし、今まで以上に藤里を誇ることができると思います。これからも交通安全を意識していつて事故のない、安全な町として知られたいと思いました。

『交通事故のない町だからこそ』



安部真心さん

毎日のように、テレビでは交通事故のニュースが流れています。その事故もさまざまあつて、小さい子どもや高れい者が巻きこまれ命を失うこともあります。

私は、そんなニュースを見るとかわいそうな気持ちでいっぱいになります。今まで元気だった人が、一しゅんのうちに命を失ってしまう、二度と会えなくなる、そう思うととてもつらいのです。

私は、今、健康で、当たり前のように、

毎日学校に行ったり友達と遊んだりしています。大好きなミニバスの部活もがんばっています。家族もみんな元気に過ごせているので、幸せな毎日です。

しかし、もし私や私の家族が事故に巻きこまれてしまったら、どうなるでしょう。ケガをして入院したり、命を失ったりしたら幸せな毎日の生活は、一しゅんにして消えてしまいます。そう考えると、とてもこわくなります。そこで、人々を不幸にする交通事故にあわないために、どんなことに気を付けたいか、考えてみました。

一つ目は、車に乗ったら必ずシートベルトをつけることです。以前、テレビで、車のしゅう映像を見ました。そのとき、シートベルトをしている人形とシートベルトをしていない人形のしゅう突したときのしゅうげきが全然違いました。シートベルトをつけていた方は、しゅうげきはあつたものの車内から飛び出ることにはなかつたのです。シートベルトをつけていない方は、車外に飛ばされてしまいました。私はそれを見て、シートベルトは私達の命を守ってくれているのだということを強く感じました。「すぐ近くだから大丈夫」という気持ちで、シートベルトをつけないことがないよう、家族みんなで声をかけ合ってください。

二つ目は、お酒を飲んだら絶対に運転をしないということです。私のお父さんもお酒を飲みます。いろいろな集まりで飲み会もあります。そんなときは、お母さんがおかえに行くか、歩いて帰ってきます。飲酒運転をしないのは、ドライバーの義務なんだと強く感じます。

三つ目は、歩きスマホです。今の時代は、みんなスマホを持っています。「自分は大丈夫」、そんな気持ちで歩きながらスマホ

をやっている人もいます。前を見ず、スマホばかりに気をとられ、車が来ても歩行者がいても気がつかずにいると本当に危ないと思います。

藤里町は、高れい者が多い町です。だからこそ、若い人達が高れい者を思いやりながら安全に気を付ける事が大切だと思います。「おはようございます。」「こんにちわ。」「などのあいさつはもちろんのこと、」「車が来るよ。」「気を付けてね。」「などの声をかけることによって、これからも交通事故のない幸せな藤里町であり続けられると思います。

『小さな努力は、大きな幸せ』



小田原未呼さん

「気を付けてね。」

朝、登校しようとする私に、お母さんはいつもこう言います。いろいろな意味が込められているのだと思いますが、一番に感じるのは交通事故のことです。私は、交通事故にあわないために、いつも気をつけていることが三つあります。

一つ目は、シートベルトです。車に乗ったら、必ずシートベルトを着用するようにしています。お父さんは、車を走らせてから着用することが多いので、着用が遅いときは私が声をかけることもあります。

二つ目は、横断歩道のわたり方です。信号が赤のときは絶対にわたらないのはもちろんですが、青になっても必ず左右の安全